

中間 評価	事業名	困難を抱える青少年のための「プラッとホーム事業」		実施 団体名	フリースペースあかね		事業番号	H27-
	岡山市①	教育委員会事務局指導課	服部 道明、永井 正博	岡山市②	岡山っ子育成局こども企画 総務課	溝手 得三郎	事業費	2,508,000
	団体責任者 役職名氏名	中山 遼(代表)		連携団体			補助金額	1,938,000
	記入者名			問合せ先 電話番号	086-256-7122		支出経費 9月末概算	816,639

番号	体制・進捗の評価	当初の目標に対する 現在(H27年9月30日)の状況	⇒ 現在の課題は何か	⇒ 課題に対する今後の対策 (今年度中のいつまでに何を行うか)
1	事業はスケジュールに基づいて実施されていますか？	・各事業によって差はあるが、概ねスケジュール通り実施されている。既存の居場所事業・訪問相談事業においては、利用が好調に増えてきている。	・今年度からの新しい取り組みである、学習支援、就労支援は居場所事業から次のステップに進むために今後も必要な事業であるが、ノウハウの蓄積が必要であり、次年度以降も継続して行うことが必要である。	・次回の定例連絡会から、次年度以降についての協議を積極的に行っていく。
2	経費は概ね予算どおりに執行されていますか？	・就労支援事業では支出が少なかったり、居場所事業では支出が多いなどの差はあるが、全体としては概ね予算通りに実行されている。	・活かしきれていない就労支援の予算の有効活用。	・就労支援で、既存の農業による就労体験に加え、キャリアデザイン(就労準備)のプログラムを追加することによって、予算の有効活用を図る。
3	事業の進捗状況を関係機関等に発信し、積極的に連携を図っていますか？	<p><学校との連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山市立学校の児童生徒が「あかね」へ通室する際、通室日数や支援の状況等について、情報連携は図れている。 ・「岡山市教育相談機関定例連絡会」へ出席するなど、岡山市の教育相談や不登校支援機関との連携は進んでいる。 ・岡山市の教育機関と「あかね」が双方のパンフレットを置くなど、お互いを紹介することができるようにしている。 <p><事業における他団体との連携></p> <p>各事業によって下記のような関係機関に事業の説明や、協力の要請を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【こころの健康センター】【中央公民館】【就労移行支援センター-FreeDesign】【A型事業所社の家】【子ども相談主事】【福祉事務所】【就実大学】【各適応指導教室】【教育相談室】【NPO法人志塾フリースクール】【NPO法人山村エンタープライズ】など 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害や精神障害など、専門的な知識が必要な利用者への対応について、他団体への相談や適切なリファラーがより必要。 ・岡山市の教育相談室や適応指導教室と「あかね」の双方へ通室したり、支援を受けたりするケースが増加しており、具体的な支援についても連携が必要となってきた。一方、守秘義務などについての課題がある。 ・学習支援と就労支援については、ニーズはあるが、実際の動きは始まったばかりで、これからの部分が大きいと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識が必要な利用者への対応については、他団体への相談やリファラーをより積極的に行う。 ・岡山市の教育相談室、適応指導教室のチラシ等に「あかね」を記載するなど、連携機関であることを市民に対して周知する。 ・岡山市の機関と「あかね」双方を利用している児童生徒について「ケース会議」を開くなど、より効果的に支援するための仕組みづくりを行う。
4	団体と担当部署間で事業目標を共有し、次年度以降の展開に向けて協議していますか？	・2～3ヶ月に一度、定例連絡会を行い、現在の事業の進捗状況や、次年度以降についても協議を開始している。定例会内で、岡山市立学校の長期欠席・不登校の状況及び、岡山市の対策や支援状況は共有できている。	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の学習支援、どこにも相談できていない小学生への支援等、支援についての課題は大きい。 ・フリースクール等に対する国の動きが出てきている中で、NPO法人化や事業内容の確認等が必要であると考える。 ・上記を踏まえ、次回の定例連絡会から、次年度以降についての協議を積極的に行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山市の児童生徒を支援する各機関が、その役割や長所・短所を知ることで、悩みや不安を抱える児童生徒がより適切な場所で、より適切な支援が受けられるようにする。 ・上記を踏まえ、次年度協働モデル事業への応募に関わらず、定例会の継続を行っていくこととする。次回の定例連絡会から、次年度以降についての協議を積極的に行っていく。

	事業名	困難を抱える青少年のための「プラッとホーム事業」	実施 団体名	フリースペースあかね	事業番号	H27-
番号	事業に対する評価	当初の目標に対する 現在(H27年9月30日)の状況	⇒ 現在の課題は何か			
1	居場所事業	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開所日数約220日。居場所利用回数約1800回。 <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開所日数はスケジュールどおり。 ・去年のモデル事業に引き続き利用者は徐々に増加してきている。現在の利用・相談者数は小学生が15名、中学生が15名、高校年齢以上の若者が43名である。また、合計の居場所利用回数は1037回である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の増加に伴い、相対的にスタッフ・ボランティアが不足してきており、スタッフ及びボランティアの補充と、その交通費の確保が課題である。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ゆうあいセンターや各大学からのボランティアの補充を募集する。 ・経験の少ないボランティアの育成のため、1日の居場所業務の終わりに、「フィードバック」の時間も設ける(10月から既に実施中)。 ・(他事業とも関係することではあるが)「学校復帰」の捉え方を担当課に確認・共有したので、次回以降はその状況も追記していく。 	
2	訪問相談事業	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定量目標なし。昨年度実績やスタッフ数と合わせて適正規模を測っていく。 <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・去年一年間の依頼件数が24件だったにも関わらず、今年の依頼件数は半期(5月～9月)の時点で、44件と大幅に増加している。また訪問相談をきっかけに毎週学校に登校するようになったケースもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・居場所業務と同じく、依頼の増加に伴う訪問相談員の相対的な不足と、人件費の確保が課題である。 		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい訪問相談員を今年中に一名増員する。 	
3	電話相談事業	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定量目標なし。昨年度実績やスタッフ数と合わせて適正規模を測っていく。 <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーフレット、チラシ、SNSなどでの広報が進むにつれて、問合せや電話相談が増加してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・居場所への参加や訪問相談などへの導入というのが電話相談の一番の目的だが、電話での相談が長引き、人手不足になりつつある居場所事業に支障がでることがある。 		<ul style="list-style-type: none"> ・電話での相談が長引きそうな場合の来所相談、訪問相談への誘導の仕方を統一。 	
4	学習支援事業	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定量目標なし。今年度新規に開始した事業となるためニーズの測定に努める。 <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業開始当初はあかねで勉強をするということに抵抗感を示す子もおり、利用が少なかったが、8月から利用者が増加してきている。利用者は5月～9月現在で12件(小学生4件、中学生2件、若者5件)である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・完全予約制にしていたことで、学習支援へのハードルが高くなっている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援の完全予約制を止め、火曜日・水曜日の午前中を学習の時間として開放することで、利用へのハードルを下げる(10月から既に実施中)。 	
5	就労支援事業	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定量目標なし。今年度新規に開始した事業となるためニーズの測定に努める。 <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居場所内での若者に対する呼びかけ、公民館や関係機関へのチラシ配布、ネット上での告知などを行ったが、利用者は現在2件のみと当初の予定より少なくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漠然とした意欲はあるが、具体的な目標や目的がない若者が多く、彼らにどうやって具体的な目標や目的を持ってもらうかが課題である。 		<ul style="list-style-type: none"> ・漠然とした社会復帰への思いを、具体的な目標や目的意識へと向上させるため、既存の農業による就労体験に加え、キャリアデザイン(就労準備)のプログラムを追加する(委託予定先との合意済み)。 ・現在、就労に対しての意欲を図る途中経過のプロセスを数値化できていないため、具体的な変化や経過も記録することを検討していく。 	

	事業名	困難を抱える青少年のための「プラッとホーム事業」	実施 団体名	フリースペースあかね	事業番号	H27-
	その他特記事項及び ESD・市民協働推進 センター等への要望	現 況		課 題		要望・対策（案）
1	とくになし					